

平成27年度 十勝農試 定期作況報告 大豆

月	作況	事由
6月20日	平年並	播種期は平年並の5月20日であった。播種後、好天に恵まれたため出芽は良好で、出芽期は平年より4日早かった。しかし、出芽後は気温の低い日が多く、主茎長・主茎節数は平年並である。 以上のことから、現在の作況は平年並である。
7月20日	平年並	6月下旬の低温により、生育は停滞した。期間を通して降水量が著しく少なく干ばつ傾向となり、主茎長は平年を下回った。7月10日以降の高温により、開花始は平年並の7月13日となった。分枝数は平年より多いが、主茎節数は平年並である。 以上のことから、現在の作況は平年並である。
8月20日	平年並	適度な降水により干ばつ傾向は解消された。着莢数は平年をやや下回ったものの、7月下旬は高温に経過したことから、粒肥大は平年より早く進んでいる。主茎長は平年を下回ったが、分枝数は平年を上回り、主茎節数は平年並である。 以上のことから、現在の作況は平年並である。
9月20日	平年並	期間を通して低温に経過したが、成熟期は平年より2日早かった。主茎長は平年を下回ったが、分枝数は平年を上回り、着莢数と主茎節数は平年並である。 以上のことから、現在の作況は平年並である。
10月20日	やや不良	着莢数、一莢内粒数は平年並であったが、百粒重は平年よりかなり軽かった。このため、子実重は平年対比95%とやや下回った。 以上のことから、現在の作況はやや不良である。
11月20日	やや不良	播種期は平年並の5月20日であった。播種後、好天に恵まれ、出芽期は平年より4日早かった。6月中旬以降は降水量が著しく少なく、また6月下旬から7月上旬まで低温に経過したことから、生育は停滞した。7月10日以降の高温により、開花始は平年並の7月13日となった。7月中旬から下旬まで高温に経過したことから、粒肥大は平年より早く進んだ。8月中旬以降、低温に経過したが、成熟期は平年より2日早く、登熟期間は短かった。初期生育が停滞したことから、主茎長は平年より短かった。着莢数、一莢内粒数は平年並であったが、百粒重は平年よりかなり軽かった。このため、子実重は平年対比95%とやや下回った。屑粒率は低く、検査等級は“2中”で平年を上回った。 以上のことから、本年の作況はやや不良である。

生育データ

品種名		ユキホマレ		
項目/年次	本年	平年	比較	
播種期(月日)	5.20	5.20	0	
出芽期(月日)	5.30	6.3	△4	
出芽率(%)	91.3	90.8	0.5	
開花始(月日)	7.13	7.13	0	
成熟期(月日)	9.20	9.22	△2	
主茎長 (cm)	6月20日	13.3	11.4	1.9
	7月20日	54.2	62.0	△7.8
	8月20日	63.0	75.5	△12.5
	9月20日	-	76.7	-
	成熟期	63.9	73.4	△9.5
主茎節数 (節)	6月20日	3.3	3.0	0.3
	7月20日	10.4	10.3	0.1
	8月20日	10.8	10.5	0.3
	9月20日	-	10.8	-
	成熟期	10.9	10.5	0.4
分枝数 (本/株)	7月20日	6.2	3.8	2.4
	8月20日	6.3	4.5	1.8
	9月20日	-	4.5	-
	成熟期	6.4	3.9	2.5
着莢数 (莢/株)	8月20日	70.0	75.8	△5.8
	9月20日	-	67.9	-
	成熟期	65.5	66.3	△0.8
一莢内粒数(粒)	1.86	1.79	0.07	
子実重(kg/10a) ³⁾	354	372	△18	
百粒重(g) ³⁾	34.7	39.9	△5.2	
屑粒率(%)	0.1	1.9	△1.8	
品質(検査等級) ⁴⁾	2中	3上	-	
子実重対平年比(%)	95	100	△5	

備考1) 平年値は、前7か年中、平成26年(豊作年)及び21年(凶作年)を除く5か年平均である。

- 2) △は、平年と比較して「早」、「少」、「短」、「軽」、「低」を表す。
 3) 水分含量15%に換算した値。
 4) 農産物検査による等級。2等・3等は上・中・下に分けた。

耕種概要

一区面積(m ²)	区制	前作物	畦幅(cm)	株間(cm)	1株本数	株数(株/10a)	播種日(月日)	種子処理
25.2	3	緑肥えん麦	60	20	2	8,333	5.20	クルーザーMAX
施肥量(kg/10a)								
N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	堆肥	その他			
1.8	15.0	7.8	3	なし	なし			